

*Luxman*

VACUUM TUBE INTEGRATED AMPLIFIER

**LX-32u**

*Owner's Manual*



このたびは、ラックスマンの真空管プリメインアンプ LX-32u をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。

NHK がラジオの本放送を開始した 1925 年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは、80 余年にわたって数多くの製品をオーディオファンや音楽ファンに届けてまいりました。その間、いつの時代にあってもオーディオと音楽を愛する人たちの熱い心は変わりませんでした。

音楽に込められたアーティストの情念を余さず忠実に再現する、そのときの感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとっての最高の価値であると私たちは考えます。

縁あってラックスマン製品をお選びいただきましたことは、オーディオと音楽に対して私たちと同じ情熱と価値観を共有できることであると、心から嬉しく思っております。

本機を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みください。それによって本機の性能が十分に発揮され、最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただくことができます。お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

# 目次

使用上の注意	1
本機の特徴	2
各部の名称と用途	4
接続方法	10
操作方法	14
リモコンの使用方法	15
ブロックダイアグラム	16
規格	17
修理に出される前に	18
アフターサービスと品質保証について	19

## アンプの置き場所について

本機は真空管アンプのため発熱量が多いので、換気や放熱が充分行われる場所に設置してください。特に、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなど高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも、故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

## 通風孔について

天板・底板の通風孔は塞がないでください。なお、ラックなどへ設置する場合は、十分な空間を取り、扉は開放して使用し、他の機器を積み重ねたり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。天板の上部は 20cm 以上の空間を空け、左右は 5cm 以上の空間を空けてください。底板の下部には脚の高さの空間を空けてください。

## 併用機器との接続時の注意

本機に CD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤー、アナログレコード・プレーヤー、チューナー、レコーダーなどの入力機器を接続するときには、本機をはじめ、すべての併用機器の電源スイッチを必ず切ってください。スピーカーを破損するほどのノイズが発生したり、場合によっては故障の原因になることがあります。本機の各入力端子に差し込むピンプラグは、しっかりと差し込んでください。アース側が浮いているとハムなどのノイズが発生し、S/N 比悪化の原因になります。

## スピーカー接続時のご注意

スピーカーシステムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子のところで、⊕⊖ 間がショートすることのないよう十分に注意してください。ショートしたままアンプに大信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

## 電源オン後すぐには音が出ません

本機には出力回路を切り離すためのタイム・ミュート回路が組み込まれているため、電源オン後すぐには音が出ません。

このタイム・ミュート回路が解除されるまでに音量が上がっていると、急に大きな音が出てくることになります。ボリューム・コントロールは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてから適度な音量にセットしてください。

## 修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービスセンターへご依頼ください。

## お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

## 安全上のご注意

### 注意



本機は重いので、開梱や持ち運び、設置の際は充分にご注意ください。



本機は真空管を使用したアンプです。電源の入った状態では本体がかなり熱くなりますので、手で触れたりすることのないようお気をつけください。また小さなお子様や放し飼いにしたペットのいる場所でのご使用は安全のためお控えください。

# 本機の特徴

## 木箱ケース

伝統的な口（ろ）の字型木箱ケースを採用。

## パラレル・プッシュプル出力段

5極管接続のEL84によるパラレル・プッシュプル構成。

## フォノアンプ

専用のフォノアンプを買い足すことなく、ハイグレードなアナログレコード再生を楽しむMM/MC対応のフォノアンプを搭載。

## トーン・コントロール

細かな音質調節が可能なターンオーバー周波数3段階切替のバス/トレブル式トーン・コントロール機能を採用。

## ローカット、モノラル機能

アナログレコードの反りによるウーハーのふらつきを抑えるローカット・スイッチやモノラル再生時に便利なモノラル・スイッチを装備。

## ヘッドフォン端子

深夜のリスニングに便利なヘッドフォン出力端子。

## セパレート機能

パワーアンプを追加したバイアンプ構成やAVシステムとの共存も可能にする、プリ/パワー分離機能。

※プリアウト（PRE OUT）端子については、セパレート・スイッチのオン/オフにかかわらず出力されます。

## レコーダー用入出力

テープデッキなどを接続可能なレコーダー用入出力端子を1系統装備。

## 高音質リレー

信号切替は耐久性に優れたオーディオ専用リレーによる高信頼設計。

## アルミ削り出しツマミ

往年のデザインを復刻した重厚感あふれるアルミ削り出しツマミを採用。

## 18mm ピッチ RCA 端子

大型のプラグを装着した高音質ケーブルにも対応する、18mm ピッチの RCA 入力端子（全 RCA 端子）。

## 大型スピーカー端子

極太のスピーカーケーブルも装着しやすく、Y ラグやバナナ端子に対応した A、B 2 系統のスピーカー端子。

## リモコン

リスニングポジションからの音量操作を可能にするアルミ製小型リモコンを付属。

## 電源ケーブル (JPA-10000)

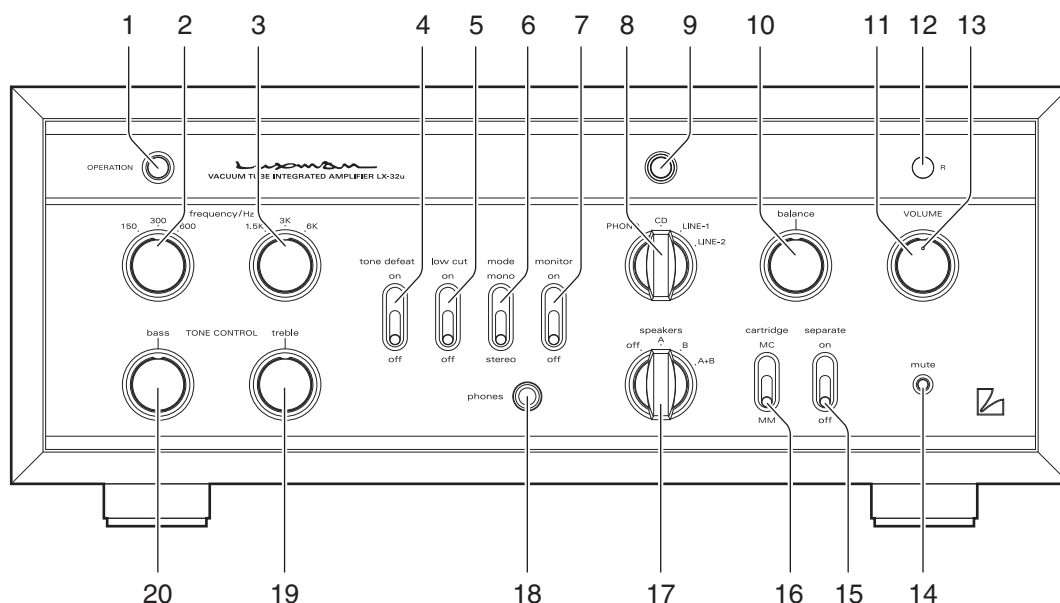
OFC 極太線ノンツイスト構造のラックスマン純正電源ケーブル JPA-10000 を付属。(極性表示付)

## 高信頼設計

真空管の動作条件に余裕を持たせた長寿命、高信頼性設計を採用。

# 各部の名称と用途

## 本体正面



### 1. オペレーション・スイッチ (OPERATION)

電源をオン/オフするスイッチです。

配線、接続時には必ずこのスイッチをオフにしてください。オフにしてから、再度オンにするときは1分以上時間を置いてください。

### 2. ターンオーバー周波数 (低域) 切替スイッチ (frequency/Hz)

低域用トーン・コントロールのターンオーバー周波数を150Hz、300Hz、600Hzに切り替えるスイッチです。例えばこのスイッチを150に合わせると150Hz以下の周波数を低域用トーン・コントロール (bass) で変化させることができます。

### 3. ターンオーバー周波数 (高域) 切替スイッチ (frequency/Hz)

高域用トーン・コントロールのターンオーバー周波数を1.5kHz、3kHz、6kHzに切り替えるスイッチです。例えばこのスイッチを1.5Kに合わせると1.5kHz以上の周波数を高域用トーン・コントロール (treble) で変化させることができます。

### 4. トーン・ディフィート・スイッチ (tone defeat)

トーンコントロール回路をバイパスさせるスイッチです。

off: トーン・コントロール (TONE CONTROL) による低域と高域の調節が可能になります。

on: トーン・コントロール回路がバイパスされます。このときトーン・コントロール (TONE CONTROL) を操作しても低域と高域のレベルは変化しません。

トーン・コントロールの位置に関係なく、フラットな周波数特性になります。

### 5. ローカット・スイッチ (low cut)

低音域をカットするスイッチです。

off: 通常の状態です。

on: 35Hz以下の低音域をカットします (-6dB/oct)。

※レコード再生時、レコードの反りによってスピーカーのウーハーが不要に揺れたりする場合に有効です。



## 6. モード・スイッチ (mode)

出力モードの切り替えスイッチです。

mono： 左右チャンネルの信号がミックスされ、モノラル再生をします。

stereo： 通常のステレオ再生をします。

## 7. モニター・スイッチ (monitor)

リアパネルのモニター入力端子 (MONITOR) を選択するスイッチです。オン (on) の状態で、レコーダーの再生ができるようになります。オフ (off) の状態で、インプット・セレクターで選択したソースからの再生ができます。

## 8. インプット・セレクター

CD/スーパーオーディオ CD プレーヤー、チューナーなど各入力端子に接続した入力機器を選択するためのスイッチです。

PHONO、CD、LINE-1、LINE-2 の 4 つの位置があり、それぞれリアパネルの入力端子と対応しています。再生したい入力系統の位置に合わせて、入力を選択します。

## 9. パイロットランプ

オペレーション・スイッチをオンにすると橙色に点灯します。

## 10. バランス・コントロール (balance)

左右チャンネルの音量バランスを調節するためのつまみです。左に回せば音量のバランスが左に片寄り、右に回せば音量のバランスが右に片寄ります。通常は中央位置で使用し、必要に応じて調節してください。

## 11. ボリューム・コントロール (VOLUME)

音量を調節するためのつまみです。

左側へ回し切った位置では音が出ません。右に回していくと音量は徐々に大きくなっていきます。

付属のリモコンでも回転し、調節できます。

## 12. リモコン受光部 (R)

付属のリモコンからの信号を受信するためのセンサーです。センサーの前は塞がないようにしてください。

## 13. ボリューム・インジケーター

音量レベルの指標となるインジケーターです。

電源スイッチを入れた直後のミュート (消音) 時間中と、本体またはリモコンのミュート (MUTE) 操作を行った際は点滅します。

## 14. ミュート・スイッチ (mute)

一時的に消音するためのスイッチです。このスイッチを押してミュート状態にするとボリューム・インジケーターが点滅し、音が出なくなります。再び押してミュートが解除されると音が出ます。

付属リモコンのミュート・スイッチと同じ働きをします。

## 15. セパレート・スイッチ (separate)

このスイッチは、プリ・アンプ部とメイン・アンプ部を分離します。

off： 通常のプリ・メイン・アンプとして使用する場合は、この位置にします。

on： 外部からの信号をリアパネルの MAIN IN 端子からメイン・アンプ部に送りこむことができます。

---

セパレート・スイッチがオン (on) のときは、本機のボリューム・コントロールで、接続されたスピーカーの音量調節はできません。音量の調節は、メインイン (MAIN IN) 端子に接続したコントロールアンプなどの入力機器側で行ってください。

また、CD プレーヤーなどの音量調節の機能しないダイレクト出力をメインイン (MAIN IN) 端子に入力すると、常にフルパワー状態となり、スピーカーを破壊するおそれがあります。

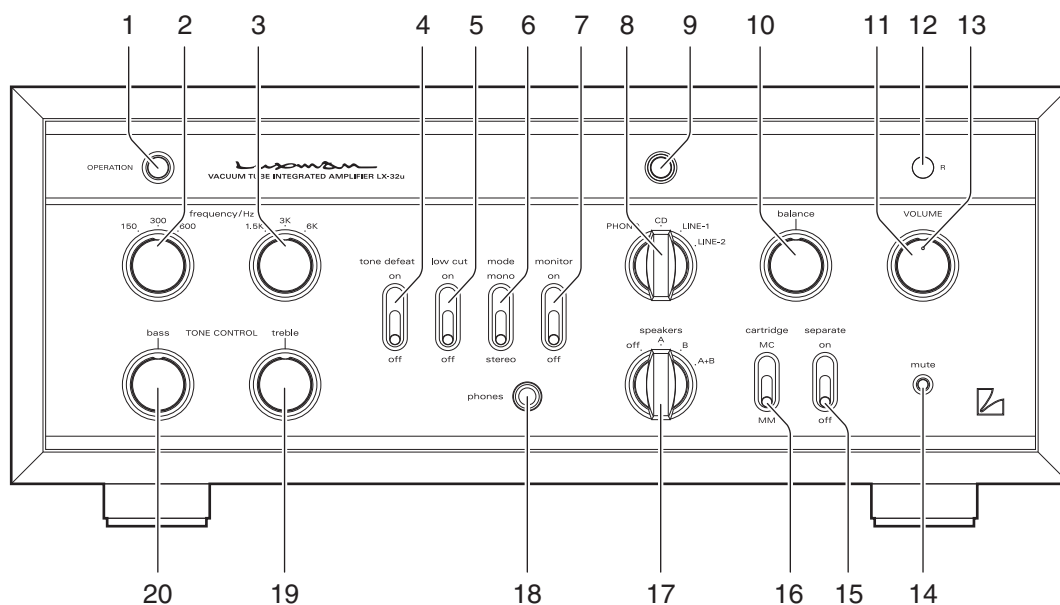
これらの入力機器は、必ず音量調節機能のあるコントロールアンプなどを中継し、音量を絞った状態で、スピーカーから音が出てから、お好みの音量になるよう調節してください。配線の変更を行う場合は必ず電源をオフにしてから行ってください。

---

※プリアウト (PRE OUT) 端子については、セパレート・スイッチのオン / オフにかかわらず常に出力しています。

# 各部の名称と用途

## 本体正面



### 16. カートリッジ・セレクター (cartridge)

インプット・セレクターを PHONO に合わせ、アナログレコード・プレーヤーによる再生をするときは、ご使用になるカートリッジのタイプとインピーダンスによって、セレクターを合わせる必要があります。本機は、このカートリッジ・セレクターにより、カートリッジのタイプを選択することができます。セレクターは MM と、MC の 2 つがあります。カートリッジの取扱説明書に書いてあるタイプと適合入力インピーダンスに従って選択してください。

カートリッジ・セレクター	MM	MC
インピーダンス	47k $\Omega$	100 $\Omega$

※ハイゲイン MC カートリッジの場合、カートリッジ・セレクターは MM ポジションでご使用ください。

### 17. スピーカー・セレクター (speakers)

リアパネルのスピーカー端子 A、B に 2 系統のスピーカーを接続することができ、それらを選択するためのスイッチです。

- off : スピーカーから音を出さずに、ヘッドフォンで聴く場合、この位置にします。
- A : A 系統のスピーカー端子を選択します。
- B : B 系統のスピーカー端子を選択します。
- A+B : A 系統、B 系統に接続したスピーカーを同時に鳴らすことができます。両方の出力端子は、並列接続になっていますので同時に鳴らすときは、A 系統、B 系統それぞれのスピーカーインピーダンスが 8 $\Omega$  以上のスピーカーを接続してください。

### 18. ヘッドフォン・ジャック (phones)

ステレオ・ヘッドフォンで聴くときに、この出力ジャックにヘッドフォンのプラグを差し込んでください。プラグを差し込んでもスピーカー出力端子への信号は切れません。したがって、ヘッドフォンだけで聴くときは、スピーカー・セレクターを off にしてください。

## 19. 高域用トーン・コントロール (treble)

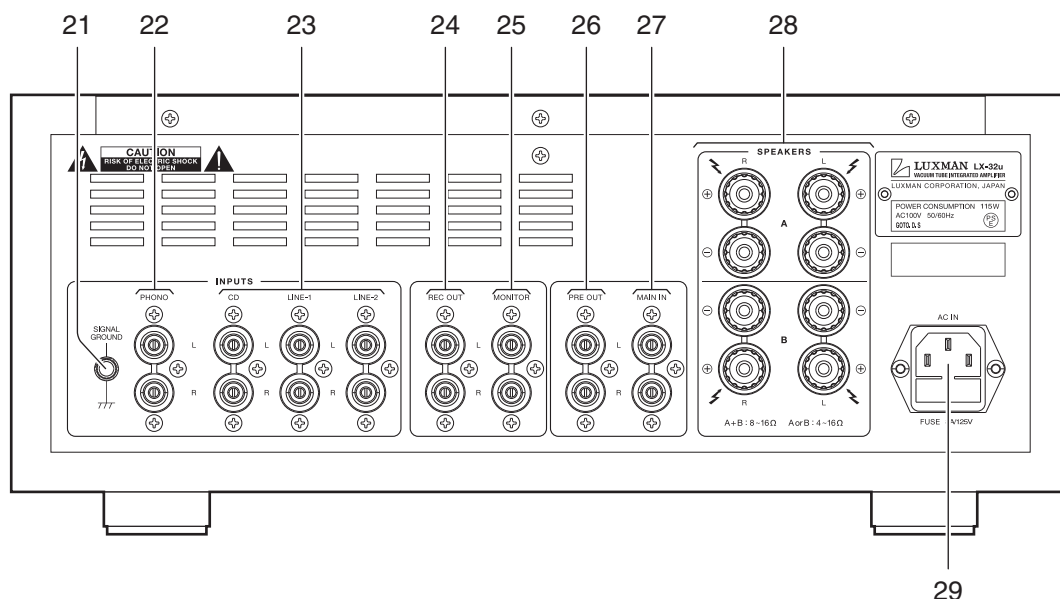
高音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右に回すと高音域が増強し、左に回せば減衰します。

## 20. 低域用トーン・コントロール (bass)

低音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右に回すと低音域が増強し、左に回せば減衰します。

# 各部の名称と用途

## 本体後面



### 21. シグナル・グラウンド端子 (SIGNAL GROUND)

本機に接続する機器のアース用端子です。この端子は他の機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのもので、アナログレコード・プレーヤーやトーンアームと接続します。安全のためのアースではありません。

### 22. フォノ入力端子 (PHONO)

アナログレコード・プレーヤーやトーンアームから出力される RCA ピンケーブルの入力端子です。アナログレコード・プレーヤーによってはフォノイコライザーアンプ内蔵のものがあります。この場合はプレーヤー側のイコライザーアンプをオフにしてご使用ください。

この端子に CD プレーヤー等、出力の大きい機器を接続しないでください。音割れが生じ正常な再生ができません。

※出荷時には雑音を防止するショート・ピン・プラグが挿入されています。使用する場合はショート・ピン・プラグを外してご使用ください。また、外したショート・ピン・プラグを録音出力端子 (REC OUT) およびプリアウト端子 (PRE OUT) に挿入しないでください。音声が出られなくなります。

### 23. ライン入力端子 (CD、LINE-1、LINE-2)

CD/DVD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤー、チューナー、ビデオデッキ、TV 音声などのハイレベル信号入力のための端子です。これらの入力端子はすべて同じ働きをします。

### 24. 録音出力端子 (REC OUT)

レコーダーの録音用入力端子と接続するための端子です。レコーダーのライン入力端子に接続します。この端子にはインプット・セレクターで選択された入力信号が出力されます。

この端子にショート・ピン・プラグを挿入しないでください。音声が出られなくなります。

### 25. モニター入力端子 (MONITOR)

レコーダーの再生用出力端子と接続するための端子です。レコーダーのライン出力端子に接続します。この端子はモニター・スイッチをオンにするとインプット・セレクターの位置に関係なく、選択されます。

## 26. プリアウト端子 (PRE OUT)

プリ・アンプ部の出力を取り出すときに使います。  
この端子は、セパレート・スイッチのオン/オフにかかわらず、常に出力していますので、外部のパワーアンプと組み合わせてバイ・アンプ接続を行うことができます。

---

プリアウト端子にショート・ピン・プラグを挿さないでください。音が出なくなります。

---

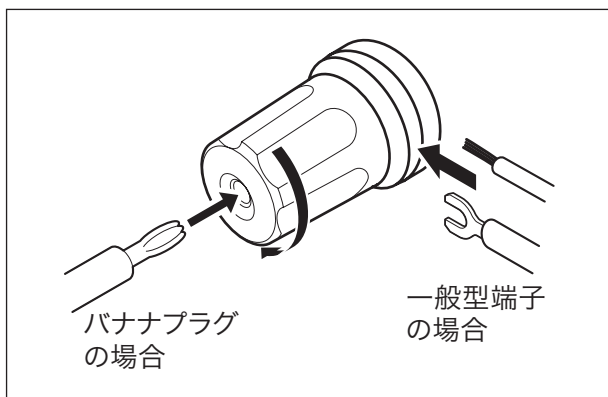
## 27. メインイン端子 (MAIN IN)

セパレート・スイッチをオンにすることでプリ部、メイン部を分離して、この端子から直接メイン・アンプ部に入力することができます。

※音量調節はできません。音量調節は入力機器側で行ってください。

## 28. スピーカー端子 (SPEAKERS)

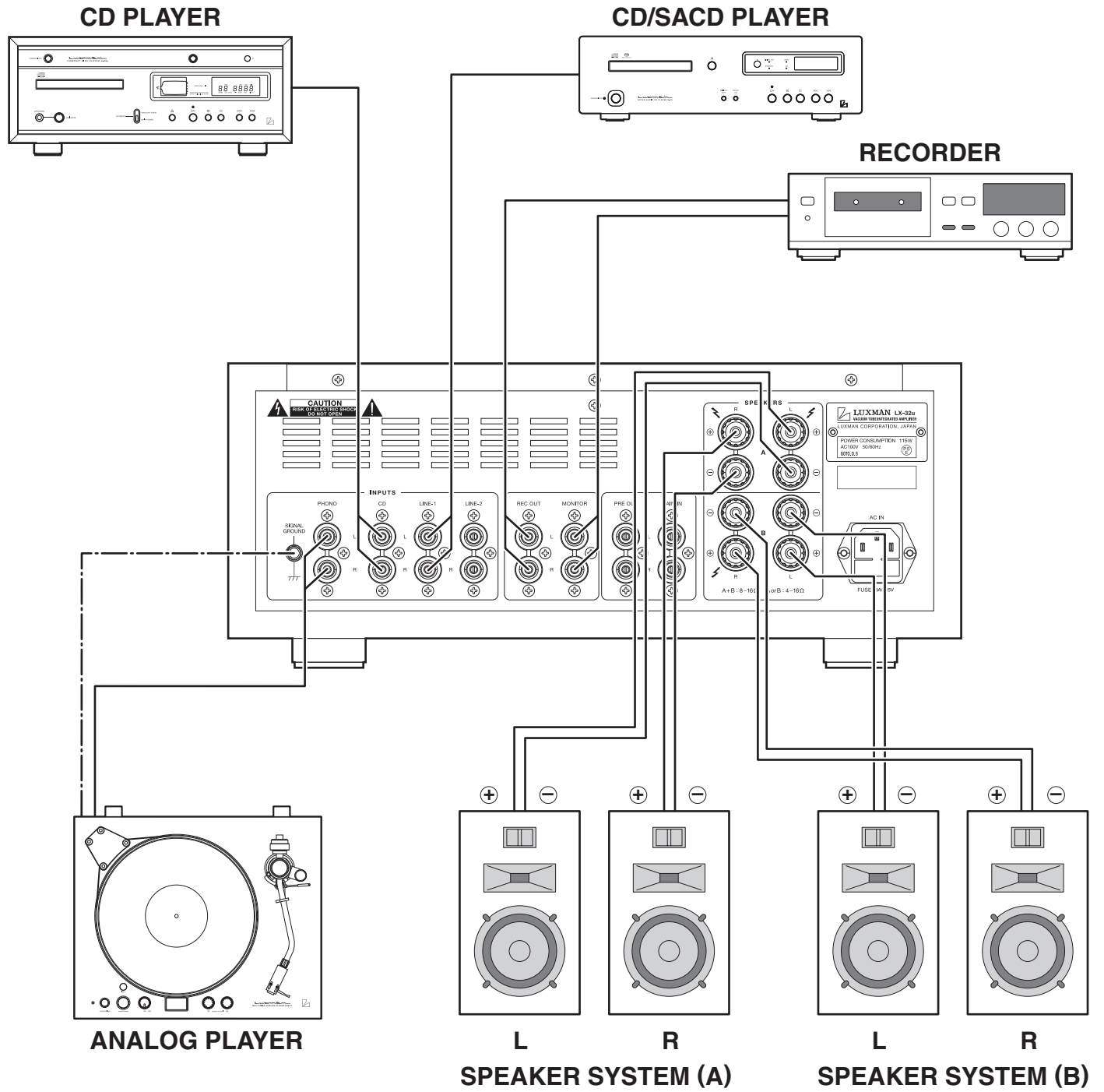
この端子にスピーカーシステムを接続します。R (右) 側には右スピーカーの端子を、L (左) 側には左スピーカーの端子を、極性を合わせて接続してください。



## 29. AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブルを接続します。電源は AC100V 家庭用コンセントをご使用ください。

# 接続方法



## 接続する前に

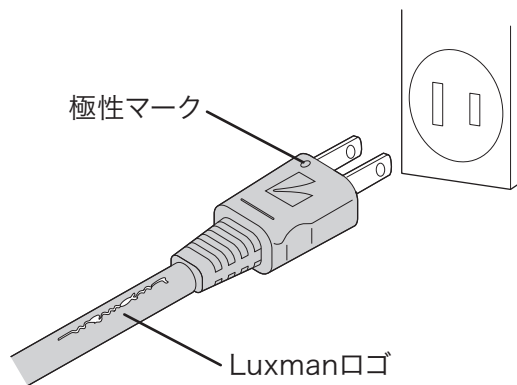
他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック部（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

接続するときは、思わぬノイズの発生による事故を防止するため、本機の電源と併用機器の電源をすべてオフにしてください。

## 電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V のコンセントに差し込んでください。ケーブル本体に印字された Luxman ロゴが見えるように（極性マークがコンセントに向かって左側にあるように）AC プラグを差し込むと、電源極性が正しく設定されます。

一般的に AC コンセントは、向かって左側の若干長い穴が接地用端子（W 表記）になっています。



## CD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤー、チューナーなどの接続

CD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤーなどの入力機器の OUTPUT 端子（出力端子）と、本機の CD 入力端子間を L、R 2 本のピンケーブルで接続してください。

チューナーなどは LINE-1、LINE-2 の入力端子に接続することで、CD 入力端子と同等の再生をすることができます。

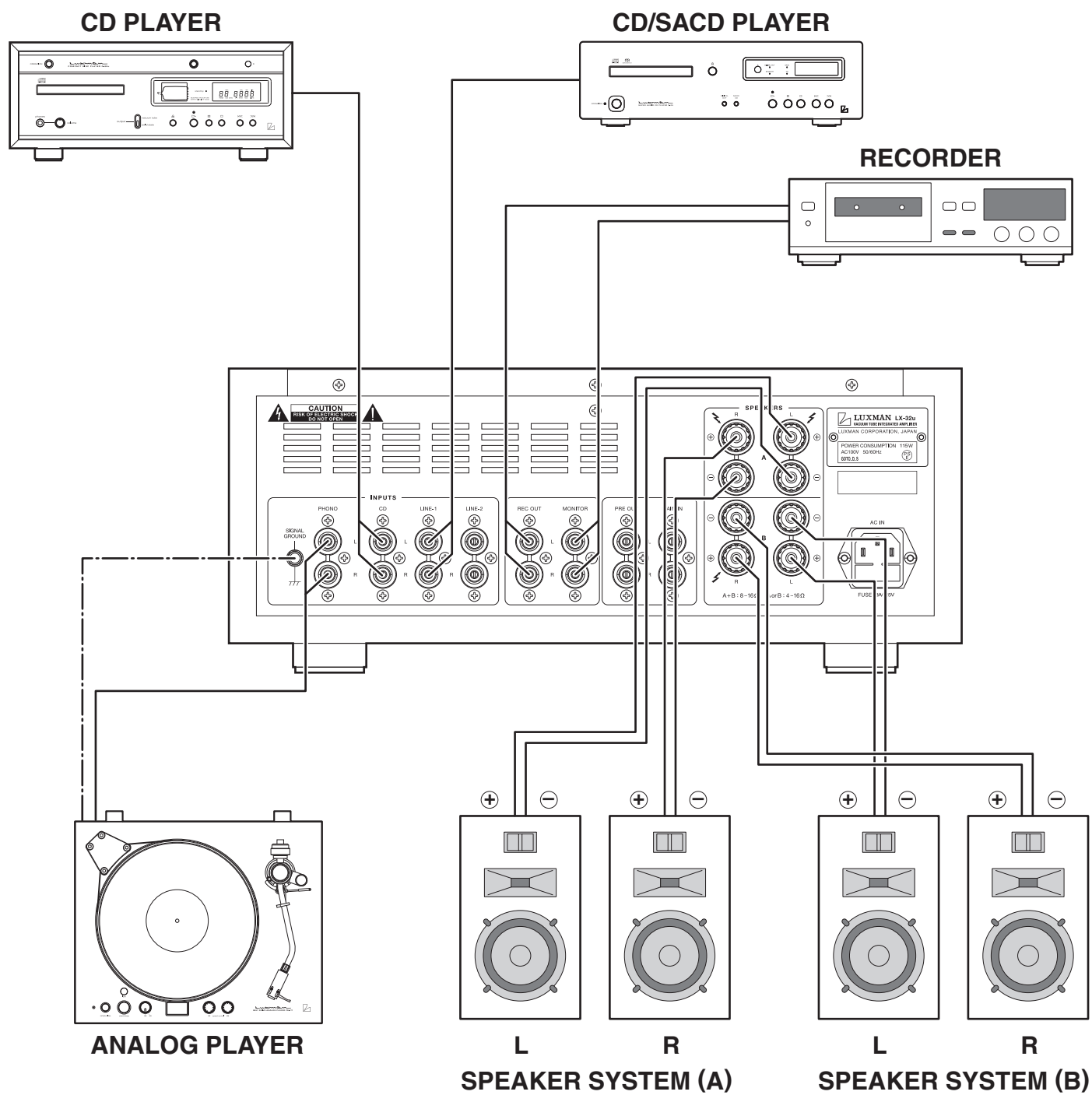
## スピーカーの接続

本機の L 端子に左チャンネル用のスピーカーを、R 端子に右チャンネル用のスピーカーを接続してください。

スピーカーシステムの ⊕ 端子を本機のスピーカー端子の赤（⊕ 側）端子に、スピーカーシステムの ⊖ 端子を本機のスピーカー端子の黒（⊖ 側）端子に、確実に接続してください。

このとき、左右スピーカーシステムの（どちらか一方の）⊕ 端子、⊖ 端子を逆に接続すると、左右のスピーカーシステムから再生される音波の位相が逆になり、低音が減少したり、音の定位が悪くなるなど、正常なステレオ再生ができなくなりますので、十分に注意してください。

# 接続方法





## レコード・プレーヤーの接続

アナログレコード・プレーヤーの出力端子と本機のフォノ (PHONO) 入力端子間を L、R 2 本のピンケーブルで接続します。

プレーヤーによってはフォノモーターやトーンアームからのアース線を本機のアース端子に接続します。

本機のフォノイコライザー部は MM、MC カートリッジに対応しています。出力電圧の低い MC カートリッジなどをお使いになる場合には、フロントパネルのカートリッジ・セレクターを MC の位置にしてご使用ください。

---

フォノイコライザー付のレコード・プレーヤーまたは、単体のフォノイコライザー・アンプの出力は、本機の LINE 入力端子に接続してください。

---

## レコーダーの接続

### 1. モニター (MONITOR) 入力端子への接続 (再生)

レコーダーに付いているライン出力端子 (LINE OUT) と本機のモニター端子に L、R を間違えないようピンケーブルで接続します。これでモニター・スイッチをオンにするとテープ・レコーダーなどの再生が行えます。

### 2. 録音出力 (REC OUT) 端子への接続 (録音)

本機の PHONO 端子、CD 端子、LINE 端子などに接続された、いろいろな入力機器のソースを再生するとき、その信号は録音出力 (REC OUT) 端子にそのまま出力されます。

レコーダーに録音するときには、本機の録音出力 (REC OUT) 端子とレコーダーのライン入力端子 (LINE IN) をピンケーブルで接続します。これでスピーカーシステムから再生される音を楽しみながら、同時に録音できます。

なお、これらの録音用出力信号は、コントロール機能 (ボリューム・コントロール、トーン・コントロール機能など) の影響は受けません。

---

録音したい入力ソースを切り替える必要がないとき、特に録音出力 (REC OUT) 端子に接続したレコーダーの録音中は、フロントパネルのインプット・セレクターを操作しないようご注意ください。

録音出力 (REC OUT) 端子にショート・ピン・プラグを挿さないでください。音が出なくなります。

CD レコーダー、テープ・レコーダー等で電源オフ時にレコーダーのライン・イン端子のインピーダンスが極端に下がるものやショートされる機器を接続すると再生音が小さくなったり、出なくなる事がありますのでご注意ください。

---

## プリアウト (PRE OUT) / メインイン (MAIN IN) 端子の接続

本機ではプリ部のみ、またはメイン部のみを分離して使用することができます。

プリ部、メイン部を分離して使用する場合は、フロントパネルのセパレート・スイッチをオン (on) にしてください。

プリ部のみを使用するときには本機のプリアウト (PRE OUT) 端子をほかのパワーアンプの入力端子に、メイン部のみを使用するときには、本機のメインイン (MAIN IN) 端子をほかのコントロールアンプの出力端子にそれぞれ接続します。

---

プリ・メインを分離しない場合は、フロントパネルのセパレート・スイッチをオフ (off) にしないと音が出ません。

プリアウト (PRE OUT) 端子にショート・ピン・プラグを挿さないでください。音が出なくなります。

---

※プリアウト (PRE OUT) 端子については、フロントパネルのセパレート・スイッチのオン / オフにかかわらず常に出力しています。

# 操作方法

## 操作する前に

1. 接続が確実に行われているか確認してください。(L、R や ⊕、⊖ の接続に誤りがあると正常な再生ができません。)
2. 電源オン/オフ時やインプット・セレクターを切り替えるときは、ボリューム・コントロールを最小にしてから行ってください。

## 再生の手順

1. ボリューム・コントロールの音量が下がっていることを確認し、オペレーション・スイッチを押してオンにします。
2. 再生するソースをインプット・セレクターまたはモニター・スイッチで選択します。
3. 音量をボリューム・コントロールで調節します。
4. 再生するソースに応じてトーン・ディフェルト・スイッチ、バランス・コントロール、トーン・コントロールを操作します。

## トーン・ディフェルト・スイッチ (tone defeat) の操作

インプット・セレクターで選んだソースの純度を高めるため、トーン・コントロール回路をバイパスして再生するときに使用します。このスイッチがオンのときはトーン・コントロール (bass、treble) を操作しても低域と高域のレベルは変化しません。

## バランス・コントロールの操作

左右チャンネル間の音量バランスを調節することができます。

左右チャンネル間の音量バランスの調節が不要なときは、中央位置で使用します。

## トーン・コントロール

### (bass、treble、frequency/Hz) の操作

本機のトーン・コントロール機能には、低域用 (bass) と高域用 (treble) があります。

低域用は、ターンオーバー周波数 (低域用 frequency/Hz) 切替スイッチで選んだ周波数以下の低音域を変化させるものです。

中央位置でフラットな周波数特性となるように設定されており、この位置より右に回すと低音域が増強し、左に回せば減衰します。

高域用は、ターンオーバー周波数 (高域用 frequency/Hz) 切替スイッチで選んだ周波数以上の高音域を変化させるものです。

低域用と同様に、中央位置でフラット、右に回すと高音域が増強し、左に回すと減衰します。

なお、低域用も高域用も左右チャンネルが連動して働きます。

---

トーン・ディフェルト・スイッチ (tone defeat) がオン (on) のときはトーン・コントロール (bass、treble) を操作しても低域と高域のレベルは変化しません。

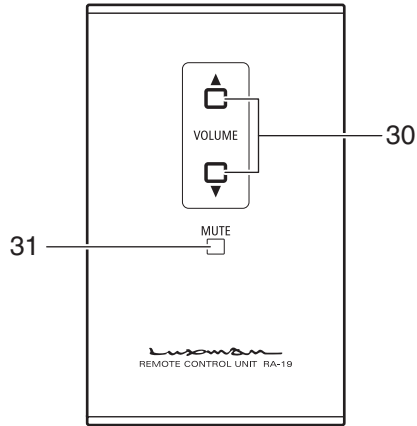
---

## ソースの録音

1. 録音するソースをインプット・セレクターで選択します。
2. 録音機器のレコーディング・スイッチを録音スタンバイ状態にします。
3. 録音するソースを再生して、レコーダーを録音状態にします。

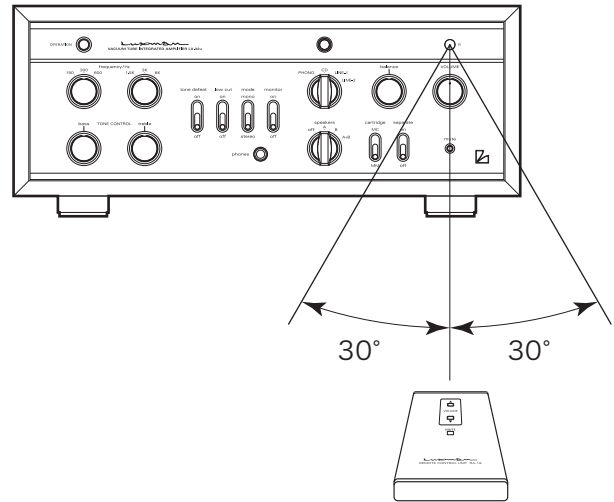
※ ボリューム・コントロール、トーン・コントロール、バランス・コントロールを操作しても、録音中の信号に影響はありません。

## リモートコントローラー (RA-19)



## リモコンについて

リモコンは、本機のリモコン受光部へ向けて、図の範囲でお使いください。



### 30. ボリューム (VOLUME, ▲, ▼)

音量を調節するためのスイッチです。▼で音量を小さく、▲で音量を大きくします。  
本体のボリューム・コントロールが回転します。

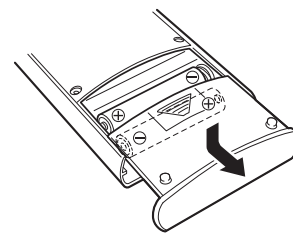
### 31. ミュート (MUTE)

一時的に消音するためのスイッチです。このスイッチを押してミュート状態にすると本体のボリューム・インジケーターが点滅し、音が出なくなります。再び押してミュートが解除されると音が出ます。

## 乾電池について

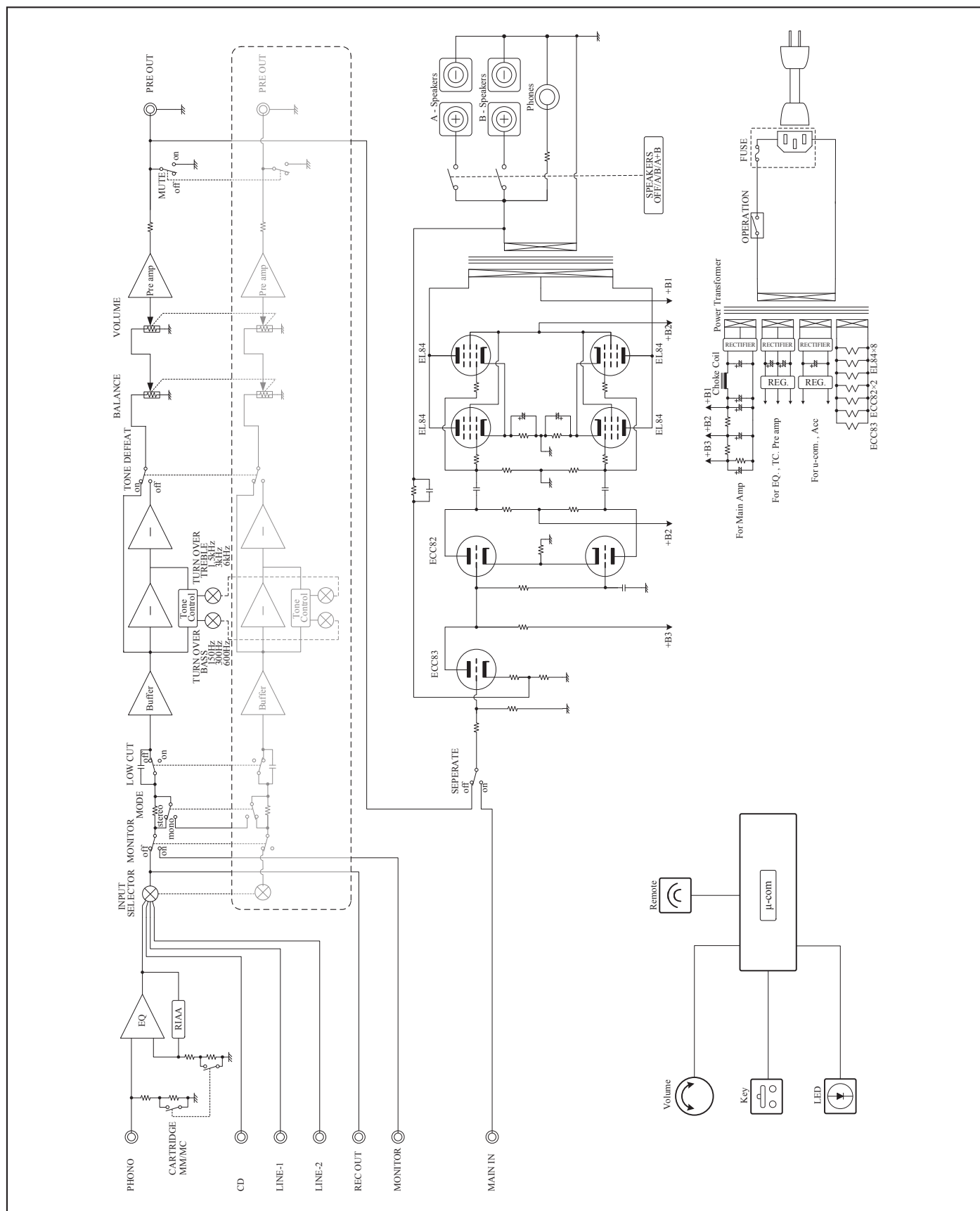
### 【乾電池の入れ方】

1. リモコンの裏面にあるバッテリー・カバーのツメに指を乗せて、押しながらバッテリー・カバーを下へスライドして開きます。
2. バッテリー・ケースの中の図と同じように付属の単4乾電池を入れます。
3. バッテリー・カバーを閉じます。



※ 乾電池が消耗してくると、有効距離が短くなったり、スイッチを押しても動作しません。このようなときは、乾電池を2本とも新しいものに交換してください。  
※ 長期間リモコンを使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

# ブロックダイアグラム



# 規格

  
 VACUUM TUBE INTEGRATED AMPLIFIER LX-32u

連続実効出力	16W + 16W (6Ω)	
全高調波歪率	1% 以下 (1kHz, 16W / 6Ω, ステレオ時, tone defeat on)	
プリ部 入力感度/入力インピーダンス	PHONO (MM)	: 3.0mV / 47kΩ
	PHONO (MC)	: 0.38mV / 100Ω
	CD / LINE	: 180mV / 47kΩ
	MONITOR	: 180mV / 47kΩ
メイン部 入力感度/入力インピーダンス	MAIN IN	: 650mV / 47kΩ
出力電圧	REC OUT	: 180mV
	PRE OUT	: 1V
S / N 比	PHONO (MM)	: 84dB 以上 (IHF-A 補正, 3.0mV 入力)
	PHONO (MC)	: 67dB 以上 (IHF-A 補正, 0.38mV 入力)
	CD / LINE	: 95dB 以上 (IHF-A 補正, 入力ショート, tone defeat on)
周波数特性	PHONO (MM)	: 20Hz ~ 20,000Hz (±0.5dB 以内, tone defeat on)
	PHONO (MC)	: 20Hz ~ 20,000Hz (±0.5dB 以内, tone defeat on)
	CD / LINE	: 20Hz ~ 80,000Hz (-3dB 以内, tone defeat on)
トーン・コントロール	BASS (150Hz)	: ±8.0dB at 20Hz
	BASS (300Hz)	: ±8.0dB at 40Hz
	BASS (600Hz)	: ±8.0dB at 100Hz
	TREBLE (1.5kHz)	: ±8.0dB at 10kHz
	TREBLE (3kHz)	: ±8.0dB at 20kHz
	TREBLE (6kHz)	: ±8.0dB at 40kHz
付属機能	[フロントパネル] ・オペレーション・スイッチ ・ボリューム・コントロール ・ミュート・スイッチ ・バランス・コントロール ・インプット・セレクター ・ターンオーバー周波数切替スイッチ ・トーン・コントロール ・カートリッジ・セレクター (MM / MC) ・セパレート・スイッチ ・トーン・ディフューズ・スイッチ ・ローカット・スイッチ ・モード・スイッチ ・モニター・スイッチ ・スピーカー・セレクター (off / A / B / A+B) ・ヘッドフォン・ジャック [リアパネル] ・入出力端子 ・スピーカー端子 ・シグナル・グラウンド端子 ・AC インレット [リモコン機能] ・ボリューム (アップ / ダウン) ・ミュート	
回路方式	ドライバー：ムラード回路、出力：5 極管接続	
使用真空管	EL84 × 8 本、ECC83 × 1 本、ECC82 × 2 本	
付属品	・リモートコントローラー RA-19 ・電源ケーブル JPA-10000 ・取扱説明書 ・保証登録書 ・安全上のご注意 ・単 4 乾電池 × 2	
電源電圧	AC 100V (50/60Hz)	
消費電力	115W (電気用品安全法による規定)	
最大外形寸法	400 (W) × 166.5 (H) × 400 (D) mm (奥行きは前面ノブ 25mm、背面端子 25mm を含む)	
重量	19.5kg (本体)	

※ 規格および外観は予告なく変更することがあります。

# 修理に出される前に

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記の表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通り確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくは弊社サービス・センターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくても点検代、出張費などをいただくことがあります。

症 状	原 因	対 策
電源スイッチを押しても電源が入らない。	・電源プラグがコンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。	・電源プラグをコンセントへ確実に差し込む。
	・電源ジャックが AC インレットから外れているか、確実に差し込まれていない。	・電源ジャックを AC インレットへ確実に差し込む。
電源は入るが音が出ない。 (左右チャンネル共)	・ボリュームが最小の位置になっている。	・ボリュームを右に回して音量を調節する。
	・ボリュームがミュートになっている。	・ミュートを解除する。
	・インプット・セレクター、モニター・スイッチが再生するソースの位置にセットされていない。	・インプット・セレクター、モニター・スイッチを再生するソースの位置にセットする。
	・接続ケーブルの接続が不完全。	・接続ケーブルを確実に接続する。
	・再生機器の出力レベルが最小になっている。	・出力レベルを調節する。
片側だけ音が出ない。	・接続ケーブルの片側だけが接続されていない。	・接続を確実に行う。
ハム音（ブーン、またはジーというノイズ）が出る。	・ピンケーブルのアース側が端子に接触していない。	・ピンケーブルのアース側が接触するように確実に接続する。
	・レコード・プレーヤーのアース線が接続されていない。	・レコード・プレーヤーのアース線をシグナル・グラウンド端子に接続する。
	・レコード・プレーヤーのカートリッジとシェル、またはシェルとトーンアームの接続・取り付けが不完全。	・カートリッジ、シェル、トーンアームを確実に接続（取り付け）する。
	・接続ケーブルと電源ケーブルが接近しすぎている。	・接続ケーブルと電源ケーブルを離す。
	・他機器の電源トランスから誘導をノイズを受けている。	・他機器から離して設置する。

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービスセンターまたはお求めの専門店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。ご容赦ください。

ラックスマン製品の保証期間は購入日より起算して2年間（ただし、真空管などの消耗品は1年間）です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。保証登録書は、本機のパッキングケース内に入っていますので、お買い上げの販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。折り返し、保証書を弊社よりお送りいたします。保証期間内の修理お申しつけの節は必ず弊社発行の保証書を添えてください。保証期間外、保証書がない場合の修理については実費でお引き受けします。

修理のご依頼、お問い合わせにつきましては、別紙のサービス情報をご覧ください。

